

2018 年度事業計画

1. 総務委員会

総務委員会は、理事会の下で各委員会と協力して学会活動を円滑に進めていきます。今年度の主要な活動計画は以下の通りです。

1) 財政

収入の維持・増加のために、会員増強活動を行います。また、事業内容の見直しも含め、財政の健全化を実施します。

2) 会員増強

関連委員会との協力の下に会員増強を進めます。春季、秋季の信頼性シンポジウム、フォーラム、見学会等の活動を活発に行い、本学会の存在を広く認知させます。

3) フォーラムおよび見学会の実施

会員のニーズに沿う、かつ新規会員の獲得に貢献できるような本部主催のフォーラムおよび見学会を2回ずつ実施します。

4) 関係学会等との協力

新規会員の獲得、会員の発表および情報収集の場の提供のため、関係学会等との協力を行います。

経営工学関連学会協議会 (FMES) 第 34 回シンポジウムが、2018 年度に開催される予定です。本学会は、開催案内広報や参加者確保の面で支援いたします。

安全工学シンポジウム 2018、第 9 回横幹連合コンファレンスおよび電子情報通信学会・信頼性研究会等の開催に、例年通り積極的に協力します。

5) 国際交流

2018 年 8 月に中国・青島にて合同開催の、8th Asia-Pacific International Symposium on Advanced Reliability and Maintenance Modeling (APARM 2018) および 8th International Conference on Quality, Reliability, Risk, Maintenance, and Safety Engineering (QR2MSE 2018) に協賛いたします。鈴木和幸氏が Honorary Chair、山本久志氏が General Co-Chair および Steering Committee Member、早川 有氏、Lu Jin 氏、田村信幸氏、田村慶信氏、肖霄氏が Program Committee Member として参画し、国際会議の盛会に向けて支援いたします。

また 2018 年度も、若手学会員を対象に、海外で開催される国際会議において講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金の募集をいたします。

2. 広報委員会

1) 本学会の認知度の向上

ホームページの利便性向上と、他学会との連携範囲の拡大も含めて、本学会の認知度の向上を図ります。

2) 会員の情報発信支援

会員の方々が情報を受けるだけでなく、会員から外部へも情報発信しやすくなるように、ホームページの改修も再検討します。

3) 学会行事の複数拠点開催の拡大

2016年度、2017年度と、信頼性フォーラムを関西へ中継を行いました。2018年度も、学会行事の複数拠点開催頻度の向上を進めます。

3. 編集委員会

1) 編集委員会で検討した2018年度の年間計画(案)を下表に示します。

発行年	発行月	種類	内容・テーマ
2018年	4月号	ニュース	信頼性ニュース
	5月号	展望	電子部品・材料の故障メカニズムと対策－故障物性研究会特集(1)－
	6月号	ニュース	信頼性ニュース
	7月号	展望	電子部品の信頼性・安全性の作り込み－故障物性研究会特集(2)－
	8月号	ニュース	信頼性ニュース(学会ホームページに掲載予定)
	9月号	展望	検討中
	10月号	ニュース	信頼性ニュース(学会ホームページに掲載予定)
	11月号	展望	検討中
	12月号	ニュース	信頼性ニュース(学会ホームページに掲載予定)
2019年	1月号	展望	検討中
	2月号	ニュース	信頼性ニュース(学会ホームページに掲載予定)
	3月号	展望	検討中

2) 学会誌で扱うテーマに関しては、読者ニーズを掘り起こした上で反映させ、今後も多くの会員に読んで頂ける記事の構成に引き続き工夫をして参る所存です。また、会員の増強に繋がる記事・企画の模索ならびにコラム欄の活用なども検討・実施して参ります。

4. 論文審査委員会

引き続き、掲載論文数の増加と、投稿論文審査のさらなるスピード化と質の向上を目指します。

- 1) 掲載論文数の増加を実現し、信頼性学会誌からより多くの情報発信を目指します。
2018年度は8編以上の論文投稿、3編以上の論文掲載を目標といたします。
- 2) 研究分野の拡大に対応して、より多くの論文が投稿されるように引き続き検討します。
- 3) 上記目標の達成のため、ショートノート、ケーススタディを活用した情報発信体制の改善、論文審査体制の見直し(特に、論文審査の電子化)を実施し、必要に応じて投稿規定等の改正を行います。
- 4) 投稿論文作成と審査の質の向上のため、論文作成に役立つ情報や、審査の心得に関する情報の準備、発信を行います。
- 5) 高木賞候補論文の選考を行います。

5. シンポジウム実行委員会

第 31 回秋季信頼性シンポジウム開催準備と運営のために委員会を 2 回，第 27 回春季信頼性シンポジウム開催準備と運営のために委員会を 2 回開催し，プログラムの編成等を行う予定です。

また，シンポジウム当日は，運営及びセッションの司会を務めます。

1) 第 26 回春季信頼性シンポジウム

日時：2018 年 6 月 4 日（月）

場所：一般財団法人日本科学技術連盟 東高円寺ビル

2) 第 31 回秋季信頼性シンポジウム

日時：2018 年 10 月 29 日（月）

場所：一般財団法人日本科学技術連盟 東高円寺ビル

3) 第 27 回春季信頼性シンポジウム

日時・場所：未定

発表論文の募集要項等は例年に準じます。詳細は後日決定次第，お知らせします。

6. 研究会運営委員会

引き続き，研究会活動を活性化することで，より大きな成果に結びつけることを目指します。そのために，学会ホームページや学会誌などで各研究会の開催案内や活動状況を紹介します。また，新たな研究会の立ち上げを呼びかけます。参加者増、合同研究会開催などを図るため，ウェブ会議システムの活用を促進します。成果の一部は，春季・秋季信頼性シンポジウムや信頼性フォーラムなどで公開します。そして，成果の発信方法として，書籍出版などを検討します。それらを通じて，学会の基盤強化にも貢献していきます。各研究会の活動計画を以下に記します。

1) IEC ディペンダビリティ規格研究会（主査：山内慎二氏）

(1) IEC 60300-3-12(Ed.2):Integrated logistic support (ILS) の研究（継続）

① 標記規格の要約を実施し，研究発表の基礎資料を作成します（完了予定：平成 30 年 9 月）。

② 関連規格 IEC 60300-3-14 及び IEC 60300-3-16 の調査を並行して進めます。

(2) IEC 62508, Guidance on human aspects of dependability の審議を進めます（翻訳書完成 30 年度中）。

(3) 研究結果の発表（未定）

(4) 研究会の会合は必要な都度開催します。（それ以外の会合は、PC メールによる。）

(5) 当研究会の実働会員の増強に努めます。

2) 情報システム信頼性研究会（主査：松尾谷徹氏）

年間 2 回の開催（上期，下期）を予定しています。日程の詳細は未定です。

内容については，「情報システムのサービス信頼性とそれを支える AI 技術」をテーマに現代社会における信頼性の価値と，複雑化した情報システム保守を支える技術について進めて行きます。

主なテーマ案は以下の通りです。

- 債権回収における催促と回収のモデル，その実績評価
- 情報システム開発・保守プロセスと AI 技術
- クリエイティブ人材育成の信頼性
- 利用者数を考慮した情報システムサービスの信頼性

3) 信頼性試験研究会（主査：松岡敏成氏）

「数と時間の壁への挑戦」を大テーマに，「故障メカニズムと寿命予測」を関連付けて，効率よく効果的な信頼性試験（計画と結果の解析）の検討を継続します。

現会員数：22 名

開催日：偶数月の第 2 金曜日が原則（年 6 回の定例会開催）

開催場所：日科技連大阪事務所セミナールーム，または大阪中央電気倶楽部

成果報告：2018 年度中に開催される本学会シンポジウムにて，研究成果を報告します。

4) 要素技術安全研究会（主査：川島興氏）

(1) 活動内容

① 前度までの研究成果をふまえ，各産業分野に展開される機能安全規格の分析を通し，機能安全規格全体の動向及び課題を把握します。

機能安全を意図した IEC, ISO 規格，法令等の状況及びその要求事項を調査します。

② 機能安全に限定せず，安全に関するトピックスを題材としたディスカッションを行い，知見を広めます。

(2) 研究会開催予定は 5 回（5 月，7 月，10 月，12 月，2 月）です。

5) 故障物性研究会（主査：土屋英晴氏）

前年度と同様，例会を年間 6 回（原則，偶数月金曜日，13 時～17 時）開催します。そのうち 10 月例会は，信頼性試験研究会と共同開催（於：大阪）の予定です。

会員と研究会の成長が継続的に進むよう研究会の方向付けを適切に行い，更に大きな成果につなげることを目指します。そのために，特に下記について重点的に実施します。

(1) 会員の意思を尊重して，信頼性・安全性の現場で起きている故障や製品事故の中から時流に相応しい研究テーマを創出し活動します。

(2) 実行委員会や分科会の活動を継続強化し，研究を深掘りします。

(3) 「日本信頼性学会ホームページ：故障物性研究会専用サイト」の運用レベルを高め，資料の共有化と活用を促進します。

(4) 成果の一部を外部に公開し，広報するとともに新たな情報収集や会員募集に努めます。具体的には，日本信頼性学会「春季・秋季信頼性シンポジウム」（オーガナイズドセッション，一般発表），日科技連「信頼性・保全性シンポジウム」などで発表予定です。また，本年度も「信頼性フォーラム」（故障物性研究会シリーズ vol.3）を企画し開催します。

(5) 成果を体系的にまとめた書籍の発行準備を行います。

6) LSI 故障解析研究会 (主査：二川清氏)

2018 年度は前年度と同様、年 2 回程度、研究会を開催する予定です。

7) Lcc (Life Cycle Costing) 研究会 (主査：中島洋行)

2017 年度に引き続き、ライフサイクル コスティングの立場から IEC 60300-3-12 を検討することによって、運用及び保守段階のコスト見積り方法について研究を深めます。

(1) 研究会

原則として年に 5 回、金曜日の 18:00~20:00 を定例研究会とし、日本科学技術連盟の会議室を利用し開催する予定です。

2018 年度開催予定日：4 月 20 日、6 月 22 日、9 月 21 日、12 月 7 日、2 月 22 日

(2) 合宿形式研究会

IEC 60300-3-12 の検討を集中的に進めるために、1 泊 2 日の合宿形式での研究開催を 10 月に予定しています。

(3) 春季または秋季信頼性シンポジウムでの研究成果発表

Lcc 研究会の研究成果の発表を目的として、春季または秋季信頼性シンポジウムのいずれかで研究発表を行うことを予定しています。

(4) 国際規格 IEC/TC 56/WG3 への支援

2017 年度に続き IEC/TC 56/WG3 への支援を継続します。

8) 機能の安定性と安全研究会 (主査：柴田義文氏)

原理的安全の概念定義の検討を継続します。

(1) 活動

- ・信頼性工学と品質工学の立場から、安全を検討します。
- ・信頼性工学と品質工学の視点を融合させて安全を研究し、設計への提案をします。
- ・危険源を除去した原理的安全の事例を集めます。
- ・TRIZ による原理的安全の検討。
- ・信頼性設計、安全設計の手法による効率化の検討

(2) 研究会開催 年 6 回以上

(3) 研究発表 日本信頼性学会および他学会への発表 6 件以上

(4) 啓蒙活動 一般公開の復活、本の出版の検討

(5) 勉強会 研究会合宿の復活

7. 表彰委員会

本年度も表彰委員会を開催し、以下を審議します。

1) 2016 年 1 月号から 2018 年 12 月号の間に学会誌「信頼性」に掲載された論文の中から、高木賞を選定するための審議を実施します。

2) 第 26 回春季信頼性シンポジウム (6 月 4 日) と第 31 回秋季信頼性シンポジウム (10 月 26 日) における発表論文の中から、優秀賞 2 件と若手奨励賞 2 名を選定するための

審議を行います。

3) 2018年1月号から2018年11月号の間に「信頼性」に掲載された論文以外の記事の中から、優秀記事コラム賞を選定するための審議を実施します。

4) 国際交流助成金

2019年度に海外で開催される国際会議において講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金として、応募者の中から助成対象者を決定するための審議を実施します。

8. 関西支部

昨年同様、信頼性に関する現状および将来の展望を探究することを目的とし、講演会(3回程度)および見学会(3回程度)、さらにフォーラム(1回)と研究発表会(電子情報通信学会 信頼性研究会との共催)を行う予定です。特に、フォーラムに関しては講演会を含め会場参加者とのディスカッションが活発に行われるように努めます。

なお、参加人数の目標として講演会30名程度、見学会20名程度とします。また、研究発表会の発表者も信頼性学会会員が増えるように努めます。

9. 本年度の主な事業の予定(再掲)

- 1) 第40回年次総会 2018年6月4日(月)
- 2) 第26回春季信頼性シンポジウム 2018年6月4日(月)
- 3) 第31回秋季信頼性シンポジウム 2018年10月29日(月)
- 4) フォーラム2回、見学会2回
- 5) 各研究会
- 6) 関西支部行事

開催日や内容については、学会誌・信頼性ニュース及びホームページに掲載します。